

# Symantec™ ApplicationHA Generic Agent インストール/ 設定ガイド

Linux

5.1

# Symantec™ ApplicationHA Generic Agent インストール/設定ガイド

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 5.1

マニュアルバージョン: 5.1.2

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2010 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Veritas、Veritas Storage Foundation、CommandCentral、NetBackup、Enterprise Vault、LiveUpdate は、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載の製品は、ライセンスに基づいて配布され、使用、コピー、配布、逆コンパイル、リバースエンジニアリングはそのライセンスによって制限されます。本書のいかなる部分も、Symantec Corporation とそのライセンサーの書面による事前の許可なく、いかなる形式、方法であっても複製することはできません。

本書は「現状有姿のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性、不侵害の黙示的な保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明、保証は、この免責が法的に無効であるとみなされない限り、免責されるものとします。Symantec Corporation は、本書の供給、性能、使用に関する付随的または間接的損害に対して責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアと関連書類は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアと関連書類の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状態で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation  
350 Ellis Street  
Mountain View, CA 94043  
<http://www.symantec.com>



# 目次

第 1 章	Symantec ApplicationHA の汎用 Application エージェント .....	7
	Application エージェントについて .....	7
	エージェント機能 .....	8
	状態の定義 .....	9
第 2 章	汎用 Application エージェントの設定 .....	11
	ApplicationHA でのアプリケーション監視の設定について .....	11
	Application agent のアプリケーション監視を設定する前に .....	12
	Application agent のアプリケーション監視の設定 .....	12
付録 A	リソースタイプの定義 .....	17
	リソースタイプの定義 .....	17
	属性 .....	18
付録 B	設定例 .....	21
	init およびカスタムプロセスの設定例 .....	21
付録 C	カスタム監視プログラム .....	25
	複数のプロセス用のカスタム管理プログラムの作成 .....	25
	PID ファイルを使った複数のプロセス用のカスタム監視プログラムの作成 .....	26



# Symantec ApplicationHA の 汎用 Application エージェント ト

この章では以下の項目について説明しています。

- [Application エージェントについて](#)

## Application エージェントについて

**Application** エージェントは、アプリケーションリソースのオンライン、オフライン、対象リソースの状態を監視します。様々なプログラムのオンライン、オフライン、監視ルーチンに対して異なる実行可能ファイルを指定するには、このエージェントを使います。実行ファイルは仮想マシンでローカルに存在する必要があります。**ApplicationHA**によってデフォルトでサポートされていないアプリケーションに対して高可用性を提供するためにこのエージェントを使うことができます。サポート対象のアプリケーションのリストについては、『Symantec ApplicationHA インストール/設定ガイド』を参照してください。

アプリケーションはルートのデフォルトコンテキストで実行されます。

アプリケーションは次の方法で管理できます。

- 監視プログラムを使用する
- プロセスのリストを指定する
- プロセス ID ファイルのリストを指定する
- 上記の方法を任意に組み合わせる

---

**メモ:** ApplicationHA Custom Application ウィザードは監視プログラムのみを設定します。プロセスまたはプロセス ID ファイルのリストを指定する方法については、VCS のマニュアルを参照してください。

---

## エージェント機能

**Online**      **StartProgram** 属性の値で指定したスクリプトまたはコマンドを実行します。指定したユーザーコンテキストにおいて、指定したパラメータでコマンドを実行します。

リソースをオンラインにするため、エージェントの機能は次のコマンドを実行します。

```
su - user -c command_to_online
```

**Offline**      **StopProgram** 属性の値で指定したスクリプトまたはコマンドを実行します。指定したユーザーコンテキストにおいて、指定したパラメータでコマンドを実行します。

リソースをオフラインにするため、エージェントの機能は次のコマンドを実行します。

```
su - user -c command_to_offline_resource
```

**Monitor**      **MonitorProgram** が指定されている場合、エージェントはユーザーが指定した環境でユーザー定義の **MonitorProgram** 属性を実行します。**PidFiles** 属性が指定されている場合は、ルーチンがリストに表示された各ファイル内にあるプロセス ID が実行中であることを確認します。**MonitorProcesses** 属性が指定されている場合は、ユーザーの指定した環境で、ルーチンがリストに示された各プロセスが実行中かどうかを確認します。

これらの属性 (**MonitorProgram**、**PidFiles**、または **MonitorProcesses**) の任意の組み合わせを使って、アプリケーションを監視します。

**PidFiles** または **MonitorProcesses** で指定されているプロセスが実行していないと判断された場合、**monitor** は OFFLINE を返します。プロセスが異常終了した場合は、**monitor** は OFFLINE を返し、フェールオーバーが発生します。

リソースを監視するため、エージェントの機能は次のコマンドを実行します。su - user -c command\_to\_monitor\_resource



**Clean** PidFiles または **MonitorProcesses** で指定した処理を終了します。User 属性で指定されたユーザー ID を使って実行されているプロセス (**MonitorProcesses** 属性で指定されている) のみが強制終了されます。**CleanProgram** が定義されている場合、エージェントは、プロセスを強制終了するために、**CleanProgram** を実行します。

リソースを強制的に停止するため、エージェントの機能は次のコマンドを実行します。

```
su - command_to_offline_resource
```

## 状態の定義

**ONLINE** PidFiles および **MonitorProcesses** 属性で指定されているすべてのプロセスが実行中であること、および **MonitorProgram** が **ONLINE** を返すことを示します。

**OFFLINE** PidFiles 属性または **MonitorProcesses** で指定されているプロセスが少なくとも 1 つが実行していないこと、または **MonitorProgram** が **OFFLINE** を返すことを示します。

**UNKNOWN** アプリケーションが判別不能な状態であるか、設定が無効であることを示します。



# 汎用 Application エージェントの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [ApplicationHA](#) でのアプリケーション監視の設定について
- [Application agent](#) のアプリケーション監視を設定する前に
- [Application agent](#) のアプリケーション監視の設定

## ApplicationHA でのアプリケーション監視の設定について

この章では、VMware 仮想化環境において ApplicationHA でアプリケーション監視を設定する手順について説明します。

続行する前に次の点を考慮してください。

- [Application Monitoring Configuration Wizard](#) を使って、仮想マシンにアプリケーション監視を設定します。
- [Application Monitoring Configuration Wizard](#) は VMware vSphere Client の [ApplicationHA] タブの [Configure Application Monitoring] リンクをクリックすると起動されます。
- このリリースでは、ウィザードで監視を設定できるアプリケーションは仮想マシンごとに 1 つだけです。  
ウィザードを使って別のアプリケーションを設定するには、最初に既存のアプリケーションの監視を設定解除する必要があります。
- ウィザードを使ってアプリケーションの監視を設定した後、コマンドラインから同じ仮想マシンに存在する他のアプリケーションの監視を設定できます。

アプリケーションサービスグループを設定するにはVCSコマンドを使います。リソース名が一意であることを確認してください。詳細については、『Veritas Cluster Server 管理者ガイド』を参照してください。次の Web サイトで最新版を確認できます。

[https://sort.symantec.com/documents/doc\\_details/sfha/5.1/Linux/ProductGuides/](https://sort.symantec.com/documents/doc_details/sfha/5.1/Linux/ProductGuides/)

- **Application agent** を監視するように設定した後、別のインスタンスを作成した場合、これらの新しいコンポーネントは既存の設定の一部として監視されません。このような場合は、最初に既存の監視の設定を設定解除してから、ウィザードを使ってアプリケーションを再設定してください。それから、すべてのインスタンスを監視対象として選択できます。

## Application agent のアプリケーション監視を設定する前に

仮想マシンで **Application agent** のアプリケーション監視を設定する前に次のタスクを完了してください。

- **ApplicationHA Console** をインストールします。
- 監視する必要がある仮想マシンに **ApplicationHA** ゲストコンポーネントをインストールします。
- 仮想マシンに **VMware Tools** をインストールします。VMware ESX 4.1 と互換性があるバージョンをインストールしてください。
- **VMware vSphere Client** をインストールします。
- **ApplicationHA** を割り当てます - アプリケーション監視を設定する仮想マシンでログオンしたユーザーにアプリケーション監視 (**Admin**) 権限を設定します。
- 仮想マシンで監視する **Application agent** および関連付けられたコンポーネントをインストールします。
- ファイアウォールを設定している場合は、ファイアウォールの設定で **ApplicationHA** のインストーラ、ウィザード、サービスによって使われるポートへのアクセスが許可されていることを確認します。  
使われるポートとサービスのリストについては、『Symantec ApplicationHA インストール/設定ガイド』を参照してください。

## Application agent のアプリケーション監視の設定

VMware vCenter Server によって管理される ESX 4.1 サーバーにホストされる仮想マシンで **Application agent** の監視を設定するには、次の手順を実行します。

### Application agent のアプリケーション監視を設定するには

- 1 VMware vSphere Client を起動し、仮想マシンをホストする VMware vCenter Server に接続します。  
vSphere Client はアプリケーション監視を設定および制御するために使われます。
- 2 左ペインの vSphere Client の [Inventory] ビューから、Application agent のアプリケーション監視を設定する仮想マシンを選択します。
- 3 右ペインの vSphere Client の [Management] ビューから、[ApplicationHA] タブをクリックします。  
ApplicationHA ビューには、選択した仮想マシンにインストールされているすべてのサポート対象アプリケーションの状態が表示されます。
- 4 ApplicationHA ビューで、[Configure Application Monitoring] をクリックします。  
これにより Application Monitoring Configuration Wizard が起動されます。
- 5 [Welcome] 画面の情報を確認し、[Next] をクリックします。  
ウィザードはシステムのすべてのサポート対象アプリケーションをリストします。
- 6 [Custom Application] を選択し、[Next] をクリックします。  
[Linux Program Selection] 画面が表示されます。
- 7 監視するアプリケーションコンポーネントを指定するには、[Add Application] をクリックします。  
[Application Parameters] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 適切なフィールドにプログラムスクリプトの名前を指定します。  

---

**メモ:** ウィザードは指定されたコンポーネントの [Display Name] を自動的にポピュレートします。ただし、このフィールドの情報は編集できます。

---
- 9 [OK] をクリックします。  
指定されたコンポーネントが [Linux Program Selection] 画面に表示されます。
- 10 監視するそのほかのコンポーネントを指定するには、手順 7 から手順 9 を繰り返します。そうでない場合は、[Next] をクリックします。  
[Define Start Stop Order] 画面が表示されます。画面にはこれまでに選択したコンポーネントのリストが表示されます。
- 11 [Parent Component] リストで、コンポーネントをクリックします。  
手順 7 から手順 10 で指定したそのほかのコンポーネントが [Components] リストに表示されます。

**12** 指定された親コンポーネントとの依存関係を設定するには、[Components]リストでコンポーネントをクリックします。すべての親コンポーネントに対してこの手順を繰り返します。

**13** [Configure]をクリックします。

ウィザードはアプリケーション監視の設定タスクを実行します。[ApplicationHA Configuration]画面に各タスクの状態が表示されます。

すべてのタスクが完了したら、[Next]をクリックします。

---

**メモ:** 設定タスクが失敗した場合は、[View Logs ]をクリックして障害の詳細を調べます。

その後、ウィザードを再び実行してアプリケーションを設定する必要があります。

---

- 14 [Finish]をクリックしてウィザードを終了します。  
これで、アプリケーション監視の設定は完了です。

---

メモ: p.21 の「[init およびカスタムプロセスの設定例](#)」を参照してください。

---

- 15 アプリケーションの状態を表示するには、[Refresh]をクリックし、vSphere Client で ApplicationHA 表示を開きます。このビューには、アプリケーションが仮想マシンで設定されて実行されているとして表示されます。

The screenshot shows the 'ApplicationHA' monitoring page for a 'Custom Application'. The status is 'Online' and it refreshes every 60 seconds. On the left, there are several control buttons: 'Configure Application Monitoring', 'Unconfigure Application Monitoring', 'Enable Application Heartbeat', 'Disable Application Heartbeat', 'Start Application', 'Stop Application', 'Enter Maintenance Mode', and 'Exit Maintenance Mode'. On the right, a table displays the status of two application instances.

	Description
✓	GenericApplication Instance [GenericApplication_sendmail_Program_res] is RUNNING
✓	GenericApplication Instance [GenericApplication_httpd_Program_res] is RUNNING

powered by: Symantec. View log





# リソースタイプの定義

この付録では以下の項目について説明しています。

- [リソースタイプの定義](#)
- [属性](#)

## リソースタイプの定義

```
type Application (  
    static keylist SupportedActions = { "program.vfd", "user.vfd",  
    "cksum.vfd", getcksum }  
    static str ArgList[] = { User, StartProgram, StopProgram,  
    CleanProgram, MonitorProgram, PidFiles, MonitorProcesses }  
    str User  
    str StartProgram  
    str StopProgram  
    str CleanProgram  
    str MonitorProgram  
    str PidFiles[]  
    str MonitorProcesses[]  
)
```

## 属性

表 A-1 必須属性

必須属性	説明
StartProgram	<p>各ノード上に作成される、アプリケーションを起動するための実行ファイル。絶対パスでこの実行ファイルを指定します。必要なコマンドライン引数を指定する場合は、実行ファイル名の後にスペースで区切って指定します。</p> <p><b>メモ:</b> この文字列では、開始と終了の ({} ) 波カッコの記号を使わないでください。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - スカラー</p> <p>例: <code>"/usr/sbin/samba start"</code></p>
StopProgram	<p>各ノード上に作成される、アプリケーションを停止するための実行ファイル。絶対パスでこの実行ファイルを指定します。必要なコマンドライン引数を指定する場合は、実行ファイル名の後にスペースで区切って指定します。</p> <p><b>メモ:</b> この文字列では、開始と終了の ({} ) 波カッコの記号を使わないでください。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - スカラー</p> <p>例: <code>"/usr/sbin/sample_app stop"</code></p>
次のいずれか(1つ以上)の属性	p.18 の <a href="#">表 A-2</a> を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ MonitorProcesses</li> <li>■ MonitorProgram</li> <li>■ PidFiles</li> </ul>	

表 A-2 省略可能な属性

省略可能な属性	説明
CleanProgram	<p>仮想マシンでローカルに作成され、アプリケーションを強制終了するための実行ファイル。絶対パスでこの実行ファイルを指定します。必要なコマンドライン引数を指定する場合は、実行ファイル名の後にスペースで区切って指定します。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - スカラー</p>

省略可能な属性	説明
MonitorProcesses	<p>監視とクリーンの対象とするプロセスのリスト。各プロセス名は、実行ファイルの名前です。パスを指定して実行ファイルを起動する場合は、実行ファイルの名前を絶対パスで指定する必要があります。</p> <p>プロセス名は <code>ps -ef</code> コマンドで表示される名前を指定します。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - ベクトル</p> <p>例: "nmbd"</p>
MonitorProgram	<p>仮想マシンでローカルに作成される実行ファイル。アプリケーションを監視します。絶対パスでこの実行ファイルを指定します。必要なコマンドライン引数を指定する場合は、実行ファイル名の後にスペースで区切って指定します。</p> <p><b>MonitorProgram</b> は次の値を返すことができます。OFFLINE 値は <b>100</b> です。ONLINE 値は信頼度に応じて <b>101</b> から <b>110</b> です。<b>110</b> は信頼度が <b>100%</b> であることを示します。その他の値の場合は <b>UNKNOWN</b> です。</p> <p><b>メモ:</b> この文字列では、開始と終了の ({} ) 波カッコの記号を使わないでください。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - スカラー</p> <p><code>httpd</code> のような <code>init</code> プロセスは、特別な監視スクリプトを必要としません。<code>ApplicationHA</code> は <code>init</code> スクリプトの <code>status</code> オプションを監視に使用します。</p>
PidFiles	<p>監視とクリーンの対象とするプロセスのプロセス ID (PID) が含まれている PID ファイルのリスト。これらのファイルは、アプリケーションによって生成されます。各 PID ファイルには、監視下にある PID が 1 つ含まれます。属性値には、絶対パスで各 PID ファイルを指定します。</p> <p>プロセス ID は、プロセスの再起動時に変更される可能性があります。PID ファイルの更新に時間がかかると、エージェントの <b>Monitor</b> 機能から不正な結果が返される場合があります。誤った結果になった場合は、リソース定義の <b>ToleranceLimit</b> の値を大きくします。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - ベクトル</p>
User	<p><b>StartProgram</b>、<b>StopProgram</b>、<b>MonitorProgram</b>、<b>CleanProgram</b> を実行するためのユーザー ID。<b>MonitorProcesses</b> で指定されたプロセスは、この属性値で指定されたユーザーコンテキストで実行される必要があります。監視時に、プロセスが指定されたユーザーコンテキストで実行されていることを確認します。</p> <p>データ形式と値の種類: 文字列 - スカラー</p> <p>デフォルト: <code>root</code></p>



# 設定例

この付録では以下の項目について説明しています。

- [init およびカスタムプロセスの設定例](#)

## init およびカスタムプロセスの設定例

ここでは、`httpd` や `sendmail` などの `init` プロセスを設定し、Symantec ApplicationHA を使ってカスタムプロセスの高可用性を設定するための手順について説明します。

`init` プロセスのアプリケーション監視を設定するには

- 1 VMware vSphere Client を起動し、仮想マシンをホストする VMware vCenter Server に接続します。

vSphere Client はアプリケーション監視を設定および制御するために使われます。

- 2 左ペインの vSphere Client の [Inventory] ビューから、カスタマイズされたアプリケーションのアプリケーション監視を設定する仮想マシンを選択します。
- 3 右ペインの vSphere Client の [Management] ビューから、[ ApplicationHA ] タブをクリックします。

ApplicationHA ビューには、選択した仮想マシンにインストールされ、監視するように設定されているアプリケーションの状態が表示されます。

- 4 ApplicationHA ビューで、[ Configure Application Monitoring ] をクリックします。これにより Application Monitoring Configuration Wizard が起動されます。
- 5 [Welcome] 画面の情報を確認し、[ Next ] をクリックします。  
ウィザードはシステムのすべてのサポート対象アプリケーションをリストします。
- 6 [ Custom Application ] を選択し、[ Next ] をクリックします。

[Linux Program Selection] 画面が表示されます。

- 7 監視する `httpd` 詳細を指定するには、[ **Add Application** ] をクリックします。  
[ **Application Parameters** ] ダイアログボックスが表示されます。

---

**メモ:** `httpd` のような `init` プロセスは、特別な監視スクリプトを必要としません。  
`ApplicationHA` は `init` スクリプトの `status` オプションを監視に使用します。

---

- 8 それぞれのフィールドに次の値を入力し、[ **OK** ] をクリックします。

Program to start the application	<code>/etc/init.d/httpd start</code>
Program to stop the application	<code>/etc/init.d/httpd stop</code>
Program to monitor the application	<code>/etc/init.d/httpd status</code>

- 9 監視するカスタムアプリケーションプロセス(つまり、設定するアプリケーション固有のプロセス)、たとえば `MyProgram` を指定するには、[ **Add Application** ] をクリックします。

[ **Application Parameters** ] ダイアログボックスが表示されます。

---

**メモ:** サンプルカスタムアプリケーションプロセス `MyProgram` を `startMyProgram`、`stopMyProgram`、`monitorMyProgram` スクリプトを使ってそれぞれ起動、停止、監視できると想定します。`monitorMyProgram` スクリプトは **Application agent** の **MonitorProgram** 属性と準拠するように作成されています。詳しくは、p.18 の「**属性**」を参照してください。

---

- 10 それぞれのフィールドに次の値を入力し、[ **OK** ] をクリックします。

Program to start the application	<code>/home/user1/myprogram/bin/startMyProgram</code>
Program to stop the application	<code>/home/user1/myprogram/bin/stopMyProgram</code>
Program to monitor the application	<code>/home/user1/myprogram/bin/monitorMyProgram</code>

- 11 `httpd` プログラムと `MyProgram` プログラムの関係を定義するには、[ **Next** ] をクリックします。

[ **Define Start Stop Order** ] 画面が表示されます。この画面を使って、相互関連するプログラムをオンラインにする順序を定義できます。

- 12 `httpd` プログラムを最初にオンラインにし、次に `MyProgram` プログラムをオンラインにするには、[ **Parent Component** ] リストで、[ `startMyProgram_Program` ] をクリックします。

- 13 [Component]リストで、`httpd_Program`をクリックしてチェックを入れ、[Configure]をクリックします。

ウィザードはアプリケーション監視の設定タスクを実行します。[ApplicationHA Configuration]画面に各タスクの状態が表示されます。すべてのタスクが完了したら、[Next]をクリックします。

- 14 [Finish]をクリックしてウィザードを終了します。これで、アプリケーション監視の設定は完了です。





# カスタム監視プログラム

この付録では以下の項目について説明しています。

- [複数のプロセス用のカスタム管理プログラムの作成](#)
- [PID ファイルを使った複数のプロセス用のカスタム監視プログラムの作成](#)

## 複数のプロセス用のカスタム管理プログラムの作成

Application Monitoring Configuration Wizard の[Custom Application]オプションでは、複数のプロセスを監視できません。ApplicationHA を使って複数のプロセスを監視するために使うことができる監視プログラムを作成するには次の手順を実行します。

プロセスパス名を使ってカスタム監視プログラムを作成するには

- 1 次のコマンドを実行して各プロセスが実行中かどうかを確認します。

```
ps -ef | grep <ProcessName>
```
- 2 すべてのプロセスが実行中の場合は、110 をリターンコードとして監視プログラムを終了します。  
いずれかのプロセスが実行していない場合は、100 をリターンコードとして監視プログラムを終了します。
- 3 このプロセスをシェルスクリプトに保存し、実行権限をスクリプトに割り当てます。
- 4 Application Monitoring Configuration Wizard の[Application Parameters]ダイアログボックスで、[Monitor Program]フィールドにスクリプトの絶対パスを入力し、監視するプロセスのリストを続けて入力します。

## PID ファイルを使った複数のプロセス用のカスタム監視プログラムの作成

Application Monitoring Configuration Wizard の [Custom Application] オプションでは、PID ファイルを使って複数のプロセスを監視できません。ApplicationHA で PID ファイルを使って複数のプロセスを監視するために使うことができる監視プログラムを作成するには次の手順を実行します。

**PID ファイルを使ってカスタム監視プログラムを作成するには**

- 1 次のコマンドを実行して各 PID ファイルで指定されたプロセスが実行中であるかどうかを確認します。

```
ps -ef | grep <ProcessID>
```

ここで、*ProcessID* は PID ファイルの内容です。

- 2 すべてのプロセスが実行中の場合は、110 をリターンコードとして監視プログラムを終了します。

いずれかのプロセスが実行していない場合は、100 をリターンコードとして監視プログラムを終了します。

- 3 このプロセスをシェルスクリプトに保存し、実行権限をスクリプトに割り当てます。
- 4 Application Monitoring Configuration Wizard の [Application Parameters] ダイアログボックスで、[Monitor Program] フィールドにスクリプトの絶対パスを入力し、続けて PID ファイルのリストをスペースで区切って入力します。